

「御国が来ますように！！ 恐れなくてただ信じていなさい」

マルコ5:21～35

■ 考える

想像 vs 意思」パスカルの名言(パンセ断章 171)にあるように、人は惨めなことを考えないために、気を紛らわしています。しかし、これこそが惨めなことであり、私たちは自分自身について考えなくなり、滅びに至っています。マルコ福音書は、「考えなさい」というメッセージが込められています。

■ 恐れなくて、ただ信じていなさい

会堂管理者ヤイロはプライドを捨てて、死にかけている娘を助けてほしいとイエスのもとに出てきました。そのとき群衆が押し寄せ、12年間長血を患い心も傷ついていた女が来てイエスの衣の裾に触れ「娘よ、あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。」と救われました。そう話しているうちに、会堂管理者の家から人が来て「あなたのお嬢さんはなくなりました。なぜ、このうえ先生の手を煩わすことがありませんか。」と言いました。会堂管理者は、娘の助けに間に合わなかった原因と思える群衆や長血の女やイエスに腹が立ったことでしょう。また、この言葉から当時のユダヤ人のメシア像について分かります。ユダヤ人は、アダムとイブの罪、死からの解放と救いをもたらすメシアを待ち望んでいました。しかし実際には、自分の人生の問題を自分の思う通りに解決してくれる者として、イエスに望みました。現代の私たちもそのように神を使ったり、別の神を造っているところはないでしょうか。

■ 「恐れ」「信じる」

「その子は死んだわけではありません。眠っているのです。」これはヤイロの娘を通してイスラエルのことを表しています。イスラエルの人々はメシアを探し求めていたが、イエスがメシアだと分からず否定しました。アダムとイブの罪ゆえに死んでいる状態です。しかし神の愛の目線からは、眠っている状態なのです。「恐れる(ヤーレー)」創世記 3:7 アダムとイブは自分が裸であることを知り、神から身を隠しました。恐れとは、神と距離があることです。

「信じる」創世記 15:5～6 子のなかったアブラムだが、子孫が星の数ほどになると言われた主を信じ、義と認められました。アダムとイブの原罪をもった私たちは、恐れず信じようとするときに義とされます。イエスはずっと「恐れるな、信じろ。わたしが救う。」と言っています。

「騒ぎ立てる(フォーム)」申命記 7:23 イスラエルの民がカナンの地に入ろうとしたとき、敵のアマレク人を見て2人以外の10人の先見隊が無理だと思ったが、主が「恐れるな。大丈夫。助ける。」と言って「かき乱し(フォーム)」根絶やしにし、イスラエルの手に渡されました。

■ あざ笑う

「あざ笑った(サーハク)」娘は眠っているとイエスが言ったとき、人はあざ笑いました。士師記 16:25 サムソンを見せ物にし、笑いものにしたペリシテ人の行為と同じです。神を恐れない、あざ笑う行為をする者は、神の国から除外されます。あなたは、あざ笑ったりバカにした言葉を発したりしていないか、よく見張り気をつけてください！聖書で、とても危険な行為だと言われています。「イエスは皆を外に出し」「出て行く(ヤーツァー)」創世記 1:12 種に分ける。創世記では、光と闇とに分けられることも書かれています。ザカリヤは、子が授かるという御使いの言葉を信じなかったため、口がきけなくなりました。あなたも、神のことばを聞いたとき、神の計画を勝手に判断しないでください。イエスが話を聞いて無視したように、あなたも人の話を無視して神のほうに目を向けなければいけません。聖書には、他にもあざ笑った人たちが出てきます。アブラハムの妻サラは、あざ笑ったあと子の問題で苦労します。ダビデの妻は、ダビデが神の御前で裸で踊ったとき、あざ笑いました。神の計画をあざ笑ってはいけません。バカにするこの行為は、愛の真反対で罪深いもので、私たちはやめなければいけません。長血の女がイエスに真剣に進み出たとき、弟子のユダたちはあざ笑いました。サマリアの女のところに行ったときもユダがあざ笑っていました。ペテロがイエスを嘲り笑ったとき、

イエスは「下がれ。サタン」と言いました。嘲り笑うのは、サタンの行為です。私たちの悪の根源でもあります。うすら笑いを浮かべてバカにする感情は、虚栄と高ぶりに導くので、気をつけましょう！

■ 眠っている」娘に「起きなさい」

「タリタ、クミ(クーム)」(少女よ、起きなさい)。創世記 4:8 カインは弟アベルに襲いかかり「殺した(クーム)」。起きて立ち上がりなさい、イブが手を伸ばして木の実を取った行動、その罪ゆえにイブの子カインが殺した行動、すべてクームという言葉です。このことから、娘が生きているためには誰かが殺されなければならない、ということが分かります。イエスが、起きて立ち上がりなさいと言ったとき、私が死ぬのだ、と言っているのです。娘は罪によって死ななければいけないが眠らせているのだ、イスラエルは神から離れ神に背いたが、憐みにより眠っていると。私が十字架にかかり死ぬことで、12歳の娘は立ち上がって歩むことができる、イスラエルの12部族が12年間神に背き、自らの足で歩いて行ってしまった背景を憐れんでいます。

娘の様子を見た人たちは口も聞けないほどに、驚いた。恐怖(シャンマー)。原罪の結果、恐れおののいて、神を見るのではなく、起きている現象に目が向きました。申命記 28:15・16・35・36 彼らはあざ笑い、主のすべての命令と掟を守り行わなかった結果のろいが臨み、追い出され、追い出された先で恐怖に襲われ笑いやなぶりものとなりました。

■ 知る

イエスは「誰にも知らせないように、厳しくおなじになった。」イエスはユダヤ人に例え話で示されるようになった後から、選ぶ権利が彼らにはなくなりました。神の権限の中で、聞き従う者が選ばれます。「少女に食べ物を与えるよう言われた」エデンの園で、木の実を取って食べてよい、と同じ言葉。神はあなたを養い、神が選んだ者をエデンの園に回復させる、と描写されています。

世界から見れば小さな出来事に思えるこの一人の娘の死は、全世界の死と救いにつながるということが描写されています。一人一人の人生に起こるいろいろな出来事が、小さいと思える出来事でも、真剣に考えて、なぜそれが起きてどう考えるべきか知らないといけません。今日はなぜ雨が降っているか。輝く太陽を仰ぐとき、月星を眺めるとき、雷鳴り渡るとき、まことの御神を思う。この雨はどこから来るか、私のところまで来るストーリーを考えましょう。悲しみを乗り越えて怒ると、考えられなくなります。しかし、悲しんで初めて考えることができます。だから悲しむことは幸いです。雨は悲しみのことを思わせてくれ、神の御前に入るようにさせてくれます。

■ まとめ

私はなぜここにいるのか、なぜこのただ中に立っているのかよく考えなさい、と聖書は言っています。神に涙を流して祈るとき、神が涙を拭き、涙に価値を与えます。会堂管理者ヤイロは娘が死んだとき絶望しましたが、イエスは連れて行き娘の起き上がる出来事を見せて教え、信仰者としてイスラエルの子孫のリーダーとして選ばれていきました。彼が選ばれたのは、イエスキリストを選ぶとしたからです。私たちは苦難の中で神様を選ぶ決断をしましょう。大切な人や、ものを失って初めて、自分の罪が分かるストーリーはよく聞きます。しかし、神はそうなる前に気付けるよう、あなたに伝えたいのです。聖書は生き様をあなたに教えています。

(要約者:高橋 奈津江)

(2023年2月19日)